

COMPASS

羅針盤

今、トップに求められる2つの体現

介護保険施行から9年目。

法人経営の先行きに手を拱くトップがいたなら、現在を小学校に入学して9年目を迎えた中学校3年生と位置づけ、制度改正の思惑や介護報酬改定の多寡を思案する前に、高校受験の夏と捉えた基礎（足元）固めの徹底を図るよう勧めたい。

受験の基礎は、言うまでもなく学力である。

介護経営の基礎は、職員の介護技術の基礎力と習熟。職員の生活の基礎力も見過ごせない。

だが、昨今の介護職の求人難に象徴される人手不足は、深刻な問題となっている。定着率の悪さ、離職率の高さなども手伝って、介護福祉士を養成する4年制・短期大学では、養成課程を希望する入学者の定員割れが相次ぎ、募集停止に踏み切るところも現れた。人が資源の根幹をなす介護サービスに人がいない。介護業界は、根底から崩壊しかねない窮地に追い込まれているといわざるをえない。

この先10年。定年を迎える中高年のベテラン層が現場を去れば、職員配置が壊滅状態になりかねない介護現場は数多に登ることになる。現役から若手に世代交代のバトンタッチが行われないまま、バトンを受け損ねてしまいかねない世代“後退”という由々しき事態にあることを、トップ自ら真摯に受け止めることである。

今、トップに求めたい中3夏休みの宿題は、毅然とした態度で2点を体現することに尽きる。

1.「基礎は汗(キソハアセ)」の体現

キ=希望

(職員に)希望を与えているか。

ソ=率先垂範

(自ら)率先垂範して、何事も実行しているか。

ハ=話し合い

(職員との)コミュニケーションを大切にしているか。

ア=遊び(ゆとり)

(職員の)仕事に‘遊び(ゆとり)’があるか。

セ=責任感

(職員の)とった行動に対して、責任をとるという覚悟で臨んでいるか。

2.「働(ハタラケニ、ハタマシク)き方」の体現

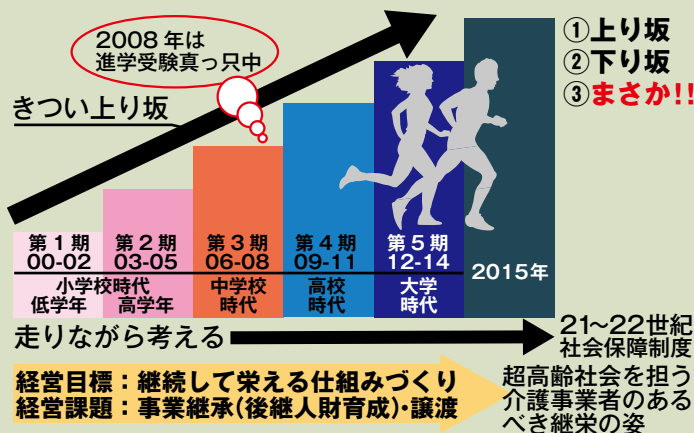
「働き方」には、①動くこと②作用すること③効果をあらわすこと④精を出して仕事をする⑤他人のために奔走することの意味がある。だが、「傍(の者)を楽に(楽しく)」なるように働くことと、語呂合わせよく語ってくれる利用者世代がいる。

キツイ、汚い、辛い、苦しい、そして待遇が悪いから、介護の仕事に背を向ける未来の若手介護職に対して、働く意味を噛み砕いて「働き方」を示すこと。

職員をはじめ、利用者とその家族、近隣地域に暮らす一人ひとりに対して、トップ自ら介護の仕事の魅力、社会的価値などを踏まえながら「働き方」を体現することである。

1合目(第1期計画)、2合目(第2期計画)から3合目(第3期計画)を辿って、来年からは4合目(第4期計画)。5合目(第5期計画)には、目下のところ最大級の難所(療養病床の廃止・転換)が控えている。

「きつい上り坂」は、これからの本番である。



(有)ハヤカワプランニング 代表

早川浩士氏

1953年生まれ 54歳 中央大学卒業 経営コンサルタント

継承と人財創造塾主宰

著書「介護人財創造塾(筒井書房)」「介護保険改正に勝つ!経営(年友企画)」他 著書多数 「経営(継承)のツボ」を「月刊介護ビジョン」にて連載執筆中 同誌編集委員 <http://www.hayakawa-planning.com>